

別紙 学校評価アンケートの自己評価結果(12月末のアンケート結果と分析)

1年	2年	低学年	
152人	149人	301人	
3年	4年	5年	6年
151人	203人	168人	149人
			中高学年
			671人
			総計
			972人

保護者アンケート	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	141人	147人	142人	184人	142人	129人	885人
	92.2%	94.2%	93.4%	90.2%	83.5%	84.9%	90.2%

領域	学	力												の				向																	
短期経営目標	基	礎				学				力				の				定				着				と				向					
項目	低学年児童				中高学年児童				低学年児童				中高学年児童				保護者				教員				教員										
	算数のべんきょうがよくわかった。				算数の勉強がよく分かった。				算数のじゆぎょうで、じぶんのかんがえをいったり発表したりすることができた。				算数の授業で、自分の考えをいったり発表したりすることができた。				「うしたドリル」や「いきいきタイム」のべんきょうをがんばり、計算する力がついた。				「牛田ドリル」や「いきいきタイム」の活動をがんばり、計算する力がついた。				学校は、算数の基礎学力を定着させる努力をしている。				「牛田ドリル」や「いきいきタイム」の活動により、基礎基本の定着をめざすことができてい				算数科では、指導の工夫により、児童が自分の考えを持つことができるようになっている。		
前期	A	221人	72.7%	382人	57.8%	177人	58.0%	329人	49.5%	213人	70.1%	429人	64.7%	476人	54.5%	14人	46.7%	3人	9.4%																
	B	B1	77人	25.3%	233人	35.2%	109人	35.7%	209人	31.4%	82人	27.0%	175人	26.4%	359人	41.1%	16人	53.3%	24人	75.0%															
		B2			43人	6.5%			105人	15.8%			53人	8.0%	38人	4.3%	0人	0.0%	5人	15.6%															
		C	6人	2.0%	3人	0.5%	19人	6.2%	22人	3.3%	9人	3.0%	6人	0.9%	1人	0.1%	0人	0.0%	0人	0.0%															
後期	A	231人	76.7%	435人	64.6%	199人	66.1%	345人	51.4%	241人	80.1%	417人	62.1%	535人	60.3%	16人	51.6%	9人	29.0%																
	B	B1	63人	20.9%	213人	31.6%	87人	28.9%	229人	34.1%	47人	15.6%	206人	30.7%	321人	36.2%	15人	48.4%	21人	67.7%															
		B2			23人	3.4%			82人	12.2%			43人	6.4%	31人	3.5%	0人	0.0%	1人	3.2%															
		C	7人	2.3%	2人	0.3%	15人	5.0%	15人	2.2%	13人	4.3%	6人	0.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%															
評価および今後の取り組み	どの項目とも前期より「A」評価が増えている。前期の課題ともなっていた「自分の考えをいったり発表したりすることができる」では、低学年は8%増え、「C」評価が1%弱減っている。授業に前向きに取り組み、頑張っていることがわかる。計算の力のみならず、思考力も身につけていくことで算数の勉強がよくわかったという評価になっている。低学年での「算数のべんきょうがわかった」の「C」が0.3%増えていることと中高学年の「牛田ドリル」や「いきいきタイム」の活動をがんばり計算する力がついた、の項目での「A」が2.6%減っていることでは、複雑な計算などが増えているためではないかと思われる。保護者の数値を見てみると、「A」評価が増え、「C」評価が減っているのは、テスト等の結果や児童の様子などより、安心してもらっていると思われる。教員の評価の数値も「A」評価が増えている。指導の工夫による成果が児童の評価に表れており、教員の評価と一致している。1人でも「わかるようになった」ことは大きな評価となると思う。今後とも算数の学力向上に継続して取り組んでいきたい。																																		

領域	豊												か				な				人				間				性				の				育				成											
短期経営目標	明				る				い				あ				い				さ				つ				き				れ				い				な				学				校			
項目	低学年児童				中高学年児童				保護者				教員				低学年児童				中高学年児童				教員																											
	「ふれあいの日」を中心として、あいさつができるようがんばった。				「ふれあいの日」を中心に、あいさつができるよう努力した。				「ふれあいの日」を中心に、子どもたちは、すすんであいさつをしている。				「ふれあいの日」を中心に、児童に気持ちのいいあいさつの働きかけを行った。				「そうじのじかた、どおりに、そうじ」ができた。				「そうじの仕方、どおりに、そうじ」ができた。				掃除の手順についての指導と掃除後の確認を行った。																											
前期	A	200人	65.8%	428人	64.8%	282人	32.0%	24人	61.5%	227人	74.7%	407人	61.5%	26人	66.7%																																					
	B	B1	88人	28.9%	157人	23.8%	397人	45.1%	12人	30.8%	65人	21.4%	231人	34.9%	11人	28.2%																																				
		B2			63人	9.5%	187人	21.2%	3人	7.7%			18人	2.7%	2人	5.1%																																				
		C	16人	5.3%	13人	2.0%	15人	1.7%	0人	0.0%	12人	3.9%	6人	0.9%	0人	0.0%																																				
後期	A	201人	66.8%	378人	56.2%	314人	35.6%	21人	56.8%	242人	80.4%	383人	56.9%	25人	69.4%																																					
	B	B1	92人	30.6%	211人	31.4%	368人	41.7%	14人	37.8%	52人	17.3%	249人	37.0%	10人	27.8%																																				
		B2			73人	10.8%	188人	21.3%	2人	5.4%			39人	5.8%	1人	2.8%																																				
		C	8人	2.7%	11人	1.6%	13人	1.5%	0人	0.0%	7人	2.3%	2人	0.3%	0人	0.0%																																				
評価および今後の取り組み	あいさつについて、児童、保護者、教職員ともに、おおむね意識的に取り組むことができているという結果が出ている。本校とPTA、地域の共同の取り組みとして、継続的にすすめてきた「ふれあいの日」が定着し、あいさつのみならず地域行事への参加などでも成果をあげている。今後も、あいさつにのみ特化せず、良好な関係を持ちながらコミュニケーションを広げていくことを目的とした「ふれあいの日」の取り組みをすすめていきたい。												きれいな学校にするために、掃除の手順の指導と、掃除後の確認について、重点を置いてきた。年間を通した指導により徹底を図ることができ、掃除時間内の子どもの習慣は、より確かなものになってきたと考えている。引き続き、こうした指導を継続するとともに、今後は、子どもたちの掃除の習慣を、他の時間にも広げていくことができるよう、ごみを落とさないこと、ごみを拾うこと、そして、家庭や地域での清掃活動なども呼びかけていきたい。																																							

凡例	低学年(1.2年)	高学年(3~6年)
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

領域	健康・体力づくり															
短期経営目標	授業力の向上								運動の習慣化							
項目	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		低学年児童		中高学年児童		教員			
	体育のべんきょうでは、たのしく行うことができました。		体育の時間では、運動することの楽しさを感じることができた。		子どもたちは、学校の体育の授業を楽しみにしている。		体育科では、課題の持たせ方を工夫し、運動の認識に重点をおいた指導を行った。児童は体育の楽しさを感じている。		「きらきらタイム」で自分の力がてなうんどうをとくにがんばっている。		「きらきらタイム」で自分の苦手な運動を特にがんばっている。		「きらきらタイム」で強化種目に関連した運動を取り入れた。			
前期	A	272人	89.5%	526人	79.6%	550人	63.4%	11人	34.4%	240人	76.7%	389人	58.8%	4学年	57.1%	
	B	B1	28人	9.2%	105人	15.9%	247人	28.5%	19人	59.4%	66人	21.1%	199人	30.1%	2学年	28.6%
		B2			24人	3.6%	65人	7.5%	2人	6.3%			61人	9.2%	1学年	14.3%
	C	4人	1.3%	6人	0.9%	5人	0.6%	0人	0.0%	7人	2.2%	13人	2.0%	0学年	0.0%	
後期	A	272人	90.4%	540人	81.6%	589人	66.6%	15人	48.4%	224人	74.4%	371人	54.5%	5学年	83.3%	
	B	B1	26人	8.6%	103人	15.6%	233人	26.3%	15人	48.4%	63人	20.9%	235人	34.5%	1学年	16.7%
		B2			14人	2.1%	54人	6.1%	1人	3.2%			64人	9.4%	0学年	0.0%
	C	3人	1.0%	5人	0.8%	9人	1.0%	0人	0.0%	14人	4.7%	11人	1.6%	0学年	0.0%	
評価および今後の取り組み	<p>本年度、体育に苦手意識をもつ児童にも「わかる・できる」が感じられる授業づくりに力を入れてきた。体育の授業や運動することが楽しいと感じているA評価が増えていることとともに、体育に楽しさを感じられない「C」評価が減っていることも大きな成果ととらえたい。「きらきらタイム」を今後も続けていき、体力づくりとともに「体育好き」を増やしていきたい。</p>								<p>後期においても前期同様、児童の「きらきらタイム」の取り組みへの肯定的評価は高く、低学年では95.3%、中高学年では89%となっている。本年度は各学年の強化種目と学校全体の強化種目の2種目を向上させるように「きらきらタイム」で取り組んだ。今後も教師が児童にどのような力をつけたいのかを明確にし、「きらきらタイム」や体育の授業で取り組むことにより児童の体力の向上を確かなものにしていきたい。</p>							

領域	まちぐるみ教育の推進				学校教育全般							
短期経営目標	かかわり合い				低学年児童			中高学年児童		保護者		
項目	保護者		教員		低学年児童			中高学年児童		保護者		
	学校は「学校便り」学年便り等のプリントや、Webページ、安心ネットなどで学校の情報の発信に努めている。		学年便りを毎月発行し、学校のWebページの学年のページを予定通り(5回)更新した。		学校は、楽しい。			学校は、楽しい。		子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。		
前期	A	581人	66.7%	6学年	85.7%	235人	77.3%	445人	67.1%	616人	70.6%	
	B	B1	257人	29.5%	1学年	14.3%	64人	21.1%	171人	25.8%	212人	24.3%
		B2	26人	3.0%	0学年	0.0%			39人	5.9%	37人	4.2%
	C	7人	0.8%	0学年	0.0%	5人	1.6%	8人	1.2%	7人	0.8%	
後期	A	574人	64.9%	6学年	100.0%	228人	75.7%	451人	67.2%	611人	69.0%	
	B	B1	290人	32.8%	0学年	0.0%	69人	22.9%	181人	27.0%	241人	27.2%
		B2	16人	1.8%	0学年	0.0%			32人	4.8%	25人	2.8%
	C	5人	0.6%	0学年	0.0%	4人	1.3%	7人	1.0%	8人	0.9%	
評価および今後の取り組み	<p>前期・後期ともに95%以上の保護者から、本校の取り組みについて肯定的な評価を得ている。学校の情報を定期的に発信することで、保護者の信頼と理解を得ることができているように思う。さらに学校への信頼や理解を高める情報発信をしていきたい。</p>				<p>前期の評価より肯定的な評価をしている児童・保護者がわずかだが増えてきた。友達とかかわる場面を多く持つようにした成果の表れだと思う。しかし「C」評価の児童・保護者数に変化がない。その理由も友達関係や学習などさまざまである。学校生活全般を通して一人一人の児童の様子をしっかりと見ていくとともに、保護者とも連携を密にしながら指導していきたい。</p>							

無回答、または、回答できない項目もあるため、合計人数は項目によって異なります。
 人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため、合計が100%にならない場合があります。